

CSR 検定第 4 回 2 級試験 (2019 年 4 月 21 日) 正答

1. 選択式問題 (1 点×25 問)

問題 1 「CSR/ESG の新しい流れ」に関する次の文章の空欄に該当する語句・数字で、最も適切なものの組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：5-1 2015 年はサステナビリティの大転換点

問題 2 「CSR と CSV」に関する次の記述で、ISO26000 の理念に照らし、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：1-2 CSR と CSV の新しい位置付け

問題 3 「ISO」に関する次の文章の空欄に該当する語句で、最も適切なものの組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：2-1 国際的な CSR イニシアティブ (全体像)

問題 4 「ソフトローからハードローへの新潮流」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト：2-2 ソフトローからハードローへの新潮流

問題 5 「国連ビジネスと人権に関する指導原則」に関する次の記述で、最も適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：2-3 「ビジネスと人権」に関する国際的な枠組み

問題 6 「日本で開発された CSR イニシアティブ」に関する次の文章の空欄に該当する語句で、最も適切なものの組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：2-5 日本で開発された CSR イニシアティブ

問題 7 「社会・環境に配慮した認証制度」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト：2-4 社会・環境に配慮した認証制度

問題 8 「サステナビリティ報告のガイドライン」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：2-6 サステナビリティ報告のガイドライン

問題 9 「CSR を経営統合する」ことに関する次の記述で、不適切なものはいくつあるか。

正答：ア (2 が不適切)

公式テキスト：3-1 CSR マネジメントの考え方

問題 10 「気候変動にかかわる動き」(COP21)に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：5-3 気候変動にかかわる動き

問題 11 「CSRのビジョン確立、システム構築、教育」についての次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：イ（1、2が適切）

公式テキスト：3-2 CSRのビジョン確立、システム構築、教育

問題 12 1995年、石油メジャー企業による北海油田の貯油タンク施設海洋投棄事件（ブレント・スパー事件）から、企業が学んだ教訓として、最も適切なものの組み合わせを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：4-1 重要なステークホルダーの視点

問題 13 「サステナビリティの情報開示/レポート」に関する次の記述で、不適切なものはいくつあるか。

正答：エ（全てが不適切）

公式テキスト：3-5 サステナビリティの情報開示/レポート

問題 14 「マテリアリティ特定」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：3-3 マテリアリティの特定

問題 15 「CSR指標の設定とインパクト評価」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ウ

公式テキスト：3-4 CSR指標の設定とインパクト評価

問題 16 「ダイアログとエンゲージメント」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：3-6 ダイアログとエンゲージメント

問題 17 「UNPRI/ ESG投資」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：5-6 ESGの情報発信/サステナビリティ投融資の流れ

問題 18 「NGO/NPOの役割」に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：エ（全て適切）

公式テキスト：4-2 CSRにおけるNGO/NPOの役割

問題 19 「NGO/NPOの企業評価」に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ（1、2、4が適切）

公式テキスト：4-3 NGO/NPOによる企業評価

問題 20 「日本版スチュワードシップ・コード」に関する次の記述で、不適切なものはいくつあるか。

正答：ア（1が不適切）

公式テキスト：4-5 株主・投資家としての責任

5-4 コーポレートガバナンス・コードの策定と改定

問題 21 「消費者の役割/エシカル消費/サステナブル消費」に関する次の記述で、国際消費者機構（コンシューマーズ・インターナショナル）の理念に照らし、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ（1、2、3が適切）

公式テキスト：4-4 消費者の役割/エシカル消費/サステナブル消費

問題 22 「CSR報告書をステークホルダー視点で読む」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：エ

公式テキスト：4-6 CSR報告書をステークホルダー視点で読む

問題 23 日本の「コーポレートガバナンス・コード」に関する次の記述で、最も適切なものの組み合わせを一つ選べ。

正答：イ

公式テキスト：4-5 株主・投資家としての責任

5-4 コーポレートガバナンス・コードの策定と改定

問題 24 「SDGsの全体像と狙い」に関する次の記述で、最も不適切なものを一つ選べ。

正答：ア

公式テキスト：5-2 SDGsの全体像と狙い

問題 25 日本の「ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)」に関する次の記述で、適切なものはいくつあるか。

正答：ウ（1、2、4が適切）

公式テキスト：5-5 ダイバーシティ&インクルージョンとCSR調達

2.記述式問題（10点×2問）

問題1 企業はCSRをどう経営に統合するのが望ましいか、記述しなさい(400字以内)

(解答例) 経営にCSRを統合するために必要な要素は3つある。それはビジョン、システム、教育だ。この3つのうちどれか一つでも欠けたら統合はうまくいかない。3つの要素は足し算ではなく、いわば掛け算の関係にある。第一に「ビジョンの確立」である。社員全員が共有すべき企業理念や中核的価値に、社会的責任をきちんと組み込むことだ。経営への統合のために不可欠な第一歩である。しかし、第二に、その抽象的な理念は実際にさまざまなレベルで行われる経営の意思決定や日々の事業活動において具現化されなければ意味がない。そのために必要なのがシステム、つまり組織を動かしていく仕組みとしてのマネジメントシステムだ。第三に、理念やシステムという形だけ整えてよしとするのではなく、そこに魂を入れるための教育を十分に行わなければならない。社員が腹の底から理解して行動する、つまり自ら考え行動する社員を育むための教育が不可欠である。

問題2 企業は人権問題にどう取り組むべきか、記述しなさい(400字以内)

(解答例) 国連「ビジネスと人権に関する指導原則」(2011年)では、企業に対して、他者への人権侵害を回避し、関与した人権への悪影響に対処することにより人権を「尊重」する責任を求めている。指導原則でいう企業の人権尊重責任は、「人権を侵害しないこと」である。企業にはまず、サプライヤーや顧客との関係も含めて、あらゆる事業活動に「人権リスク」はないか、つまり人権侵害をしていないか、あるいは侵害する可能性はないかをチェックして問題を特定し、具体的に誰のどのような人権をどのように侵害しているかを自己評価することが求められる。同原則によると、具体的には、その企業が人権の方針を公表する「人権方針」によるコミットメントが望ましい。企業のサプライチェーンにおいて児童労働や強制労働、過重労働などの人権侵害が無いか、現地調査を含めて監査する「人権デューデリジェンス」、人権救済手段の策定なども求められている。